法華経マン茶羅図における仏塔の一考察

１、はじめに

はが国では、法華経信仰とともに法華経美術も各時代を通じて行われてきた。法華経を絵画化した法華経絵の表現の対象や形式、絵画様式などにおいて他面々様相を示している。しかもそこには時代の背景、特質の一斑を窺い知ることができると考えられる。法華経は法華経に限って見ても、法華経は表現の内容から三種に大別されている。第一に法華経曼荼羅図。第二に密教の法華経曼荼羅。第三に装飾的絵画である。

２、法華経曼荼羅図について

法華経には造塔、造仏、写経など、美術に関連する作業が種々挙げられるが、特に仏塔に関しては多くの資料を提供してくる。そして法華経に使用されるも、法華経にはその高さ、縦横、素材、塔法が定められている。しかし、摩訶僧祇律に在いて、四部律などには、塔の建築様式、造塔法をめぐる法華経曼荼羅図とは、法華経の絵画の絵画解を意図して作成されたものであって、「法華経曼荼羅図」とも言える。省略して「曼荼羅図」とも称し、「曼荼羅図」という言葉も同義に用いられている。敦煌莫高窟の壁画をはじめ、懸物、掛け物等の表現形式があり、煌美高潔の壁画は、単に、曼荼羅図二十品全体の大意絵に及んでいるものに、①の代表的遺例はポストン美術館蔵の東大寺法華堂根本曼荼羅（雲山華厳法華經）である。②の例としては、静岡県湖西市本興寺蔵の四幅の法華経曼陀羅図と富山県本法寺蔵の二十二幅の法華経曼荼羅図が代表的遺例である。
両者とも大画面で主題は詳細を求めており、絵解きを目的とした塔身部が単層の六基、二層は四基、三層は四基、五層は六基、二層は四基、三層は四基、五層は六基の建物に石造形式のものが多い。附着物や造形記念碑に描かれたものも多く、木造形式には一基まで、なかには基壇は石造形式であるが塔身から上が木造形式に描かれたものもあり、よって方形基壇上の単層覆鉢形をもつことが多い。

3. 本興寺蔵ハ絵華経曼荼羅図

本興寺蔵は、絵華経曼荼羅図の作（各幅に裏書あり）を、各編一八〇、三センチ、各長八センチで、法華経八巻を二巻ずつ一幅にあらわし、計四幅のものである。仏塔が描かれているのは、第一幅の方便品、第三幅の見宝塔品、第二幅の壇と呼ばれるものである。いずれも方形基壇のもののは十五基、単層覆鉢形のものは五基である。

4. 本興寺蔵法華経曼荼羅図

本興寺蔵は、絵華経曼荼羅図の作（各幅に裏書あり）を、各編一八〇、三センチ、各長八センチで、法華経八巻を二巻ずつ一幅にあらわし、計四幅のものである。仏塔が描かれているのは、第一幅の方便品、第三幅の見宝塔品、第二幅の壇と呼ばれるものである。いずれも方形基壇のもののは十五基、単層覆鉢形のものは五基である。

5. 本興寺蔵と本光寺蔵

本興寺蔵と本光寺蔵には、法華経曼荼羅図の作（各幅に裏書あり）を、各編一八〇、三センチ、各長八センチで、法華経八巻を二巻ずつ一幅にあらわし、計四幅のものである。仏塔が描かれているのは、第一幅の方便品、第三幅の見宝塔品、第二幅の壇と呼ばれるものである。いずれも方形基壇のもののは十五基、単層覆鉢形のものは五基である。
図に示すように、図形①は図形②と図形③の組み合わせを示しています。図形①の形は、図形②の直線部と図形③の曲線部が連続的に接続しているもので、図形②の頂点と図形③の中心を結ぶ直線が図形①の基線となります。図形②の底辺と図形③の弧の端点を結ぶ直線が図形①の幅線となります。図形①の形状は、図形②と図形③のそれぞれの特性を合わせたもので、図形の全体的な形状が重要です。

図形①の適用例を以下に示します。

例1: 三重点を含む図形の形状

図形①の特徴は、図形②と図形③の形状が合わせたものが示されており、図形の全体的な形状が重要です。図形①の適用例を以下に示します。

図形①は、図形②の直線部と図形③の曲線部が連続的に接続しているもので、図形②の頂点と図形③の中心を結ぶ直線が図形①の基線となります。図形②の底辺と図形③の弧の端点を結ぶ直線が図形①の幅線となります。図形①の形状は、図形②と図形③のそれぞれの特性を合わせたもので、図形の全体的な形状が重要です。

例2: 三角形を含む図形の形状

図形①の特徴は、図形②の直線部と図形③の曲線部が連続的に接続しているもので、図形②の頂点と図形③の中心を結ぶ直線が図形①の基線となります。図形②の底辺と図形③の弧の端点を結ぶ直線が図形①の幅線となります。図形①の形状は、図形②と図形③のそれぞれの特性を合わせたもので、図形の全体的な形状が重要です。

図形①は、図形②の直線部と図形③の曲線部が連続的に接続しているもので、図形②の頂点と図形③の中心を結ぶ直線が図形①の基線となります。図形②の底辺と図形③の弧の端点を結ぶ直線が図形①の幅線となります。図形①の形状は、図形②と図形③のそれぞれの特性を合わせたもので、図形の全体的な形状が重要です。

例3: 四角形を含む図形の形状

図形①の特徴は、図形②の直線部と図形③の曲線部が連続的に接続しているもので、図形②の頂点と図形③の中心を結ぶ直線が図形①の基線となります。図形②の底辺と図形③の弧の端点を結ぶ直線が図形①の幅線となります。図形①の形状は、図形②と図形③のそれぞれの特性を合わせたもので、図形の全体的な形状が重要です。

図形①は、図形②の直線部と図形③の曲線部が連続的に接続しているもので、図形②の頂点と図形③の中心を結ぶ直線が図形①の基線となります。図形②の底辺と図形③の弧の端点を結ぶ直線が図形①の幅線となります。図形①の形状は、図形②と図形③のそれぞれの特性を合わせたもので、図形の全体的な形状が重要です。